



ちょっと素敵な話  
No.6

誇らしげな笑顔

仕事柄、職員のみなさんとフォーマルな場でお話しをさせていただくことがあります。

採用の段階から関わりを持たせていただいた職員の方に、採用一年後にお話しを伺うのもそのひとつです。

障害者支援を仕事に選び、日々利用者さんに寄り添い支援を続けられてきた職員のみなさんのお話しは、どれもこれも感動的なもので、私にとっては心待ちにしているものでした。（職員さんにとっては、鬱陶しいものだったでしょうが…。）

ある年、いつものように数名の方々とお話しをさせていただきました。その中に、大学を卒業して福成会に採用され、一年弱支援員として勤務されていた職員さんがいました。

一年間のお仕事の内容や職場での役割、実際に勤務をしての感想などを聞くと、はきはきと答えてくれました。

採用当初は、どう利用者さんに関わればよいのかわからなかったこと、コミュニケーションがとれず悩んだことなども話してくれました。

いろいろとお話しをさせていただいた後に私が、

「いろいろな苦労されたと思うけど、この一年で一番うれしかったことは何ですか。」と尋ねました。

すると職員さんは、間髪を入れずにこう答えてくれました。

「それは、利用者さんが『〇〇さん（この職員さんの名前）が、私の担当になってくれてうれしい。来年も担当でいてね。』と言ってくださったことです。」

そう言った職員さんの表情は自信に満ちていました。

それを聞いた私も感動で胸がいっぱいになりました。

当初は、戸惑うことが多く悩んだ日々が続いたことでしょう。しかし自らの努力と周囲のサポートにより大きく成長され、利用者さんと太い信頼関係を築かれ、そのことを堂々と発表し、誇らしげな笑顔の職員さん。

職員さんの成長を喜ぶとともに、利用者さんの笑顔を創り出すのは、職員さんの笑顔だと再確認した瞬間でした。

